

研究構想図（2年次）

【社会状況】

様々な問題に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、情報を見極め知識の概念的な理解を実現することで新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化で目的を再構築することができるようにすることが求められている。

（新学習指導要領を参考）

【学校教育目標】

知 よく考え 進んで学ぶ子
 体 体をきたえ たくましい子
 徳 助け合う やさしい子

【児童の実態】

課題に対して真剣に取り組む子が多い。知識が豊富であり、各種学力調査上、高い学力を有しているが、協働して問題解決に向かうことがあまり見られない。また、自ら追究していくことが苦手であることや、学力の二極化が見られることも課題である。

研究主題

深い学びを実現する授業の創造 ～新学習指導要領を踏まえて～

新しい時代に必要な資質・能力

学びを人生や社会に生かそうとする
 学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く
 知識・技能の習得

未知の状況にも
 対応できる
 思考・判断・表現
 等の育成

研究主題設定の背景

新学習指導要領では、「カリキュラム・マネジメント」として、教科等横断的に学校・学年・学級経営の改善を図る視点と、「主体的・対話的で深い学び」として、日々の授業改善を図る視点を踏まえなければならない。とりわけ、本校児童の実態を踏まえ、予測困難な未来を豊かに、人生を歩むためには、思考力・判断力・表現力等を確実に育成しなければならない。そのためには、深い学びを引き出す授業改善が必要であることから、本研究主題と副主題を設定した。

研究のねらい

教科等横断的な視点に立ち、以下のねらいを設定する。

- 昨年度の成果を踏まえ、発達段階における目指す児童像（深い学びの姿）を再設定し、さらなる授業改善を目指す。
- 日常的に多様な深い学びを引き出すとともに、深い学びの実現に向けて、カリキュラム・マネジメントの構築を図る。

育成すべき資質・能力

①＜説得力のある表現力＞②＜根拠のある判断力＞③＜創造的な思考力＞

研究の内容

◎カリキュラム・マネジメント構築

◎目指す深い学びの姿の再設定

（2年次）

【低学年目指す深い学びの姿】

- ①生活経験や既習事項と新しい知識をつなげて気付いたことを、丁寧に表現できる児童
- ②理由を基に自分の考えをもったり、問題を解決したりしようとする児童
- ③事実や周りの状況を比べたり、つなげたりしながら、新しい考えをもつことができる児童

【中学年目指す深い学びの姿】

- ①既習事項と新しい知識を結び付けて深く理解し、分かりやすく表現できる児童
- ②情報を基に自分の考えをもったり、問題意識をもって解決策を考えたりする児童
- ③物事や状況を比較・関連させながら、新しい考えを生み出すことができる児童

【高学年目指す深い学びの姿】

- ①知識を相互に関連付けるとともに、多様な場面や状況とつなげて深く理解し、自分の考えが伝わるように表現できる児童
- ②情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたりすることができる児童
- ③広い視野で物事や状況を捉え、思いや考えを基に創造することができる児童

＜具体的な手立て＞

単元構成の工夫

見方・考え方を働かせる活動の工夫

対話の工夫

深い学びの抽出